みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

東京オリンピックまで　あと456日
（2019年4月25日現在）

3月号に続き2月に実施した【ホストタウン交流促進事業】を紹介します。

2/18 トミー・E・レメンゲサウ Jr パラオ共和国大統領との面談

▲レメンゲサウ大統領（左）と三次市長

パラオ共和国の首都マルキョクの大統領府で、トミー・E・レメンゲサウ Jr 大統領と三次市長が面談しました。パラオは今年、米国から独立して25年を迎え、日本との外交関係樹立も同じく25年となる節目の年にあたり、今後のパラオと常陸大宮市の友好交流を主な議題として、活発な意見交換が行われました。その中で、三次市長から、昨年宮城県蔵王町とともに受け入れた東京2020大会に向けた事前キャンプ（陸上競技・水泳・柔道等）について、開催1年前となる2019年もぜひ受け入れたい意向をレメンゲサウ大統領に伝えました。このほか、大統領からは、パラオは観光立国なので常陸大宮市内でパラオの観光 PR をし、パラオの魅力を多くの常陸大宮市民の皆さんに知ってもらい、太平洋の楽園パラオに一度足を運んでほしいと語りました。

2/18 パラオオリンピック委員会（PNOC）打合せ会議

▲事前キャンプに向けた打合せの様子

パラオ共和国の都市コロールのパラオオリンピック委員会事務所で、フランク・キヨタ会長、バクライ・テメニル事務総長（パラオ共和国社会文化大臣）をはじめ各競技コーチ、ＰＮＯＣ事務局員と事前キャンプの日程調整等の打合せ会議を行いました。フランク・キヨタ会長からは、昨年のパラオ共和国選手団に対する本市への感謝と本年も有意義な事前キャンプとなるよう期待したいとの言葉が述べられました。三次市長からは、東京2020大会への出場権を獲得できるように、市民一丸となってサポートすることを伝えました。

2/19 ペリリュー小学校訪問交流

▲子供たちと触れ合いました

パラオ共和国の南西に浮かぶペリリュー島は、太平洋戦争の激戦地で、本市との交流のきっかけとなった島です。島内にある小学校を訪れ、1年生から4年生までの児童32人と交流をしました。三次市長は、ホストタウンとしての取組やパラオと本市の関係、東京2020大会での事前キャンプ地となっていることなどを子供たちに分かりやすく話しました。その後、子供たち全員から歓迎の意が込もった「パラオ国家」の合唱があり、和やかなが交流ができました。